

## インターンシップに期待して

### 「Y大学：学生支援部学生支援課副課長」

まずは、ご多忙の中、学生を受け入れてくださった事業所の皆さま、そして、学生のインターンシップを支援してくださった山口県インターンシップ推進協議会の皆さまに対し、心から感謝申し上げます。本学では約200名の学生が今夏インターンシップに参加させていただきました。誠にありがとうございました。

会社や役所の中に入って、働く方々と接した時間は、参加した学生にとりまして、貴重な時間であったと思います。普段、学生として過ごす時間の中では経験できない会社や役所での実体験は社会との関係を持つことのできた学生の少なからぬ自信につながったことと思います。

文部科学省では、インターンシップを「学修の深化や新たな学習意欲の喚起につながるとともに、学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られる有益な取組」として推進しております。各大学にその取り組み強化を要請しているところです。国としてもインターンシップに大いに期待し、重視しております。

本学においては、インターンシップのほかにも企業や官公庁の皆様方のお力をお借りし、「学内業界・企業研究会」、「ジョブスタディ」、「きっかけセミナー」など多彩なキャリア形成支援活動をしております。特に「学内業界・企業研究会」に力を入れており、毎年11月から2月の間、600を超える企業や官公庁の方に山口大学にお越しいただいております。大学にしながら、授業のあとに普段着で参加し、多種多様な業界や企業等を知ることができる「学内業界・企業研究会」も有益な学習の場ではありますが、インターンシップは、現実の会社や役所の中で、自身の肌で感じ、学ぶことのできる貴重な場であり時間です。学生は現実の体験で自分に足りないことに気付き、残りの学生生活を充実させよう、勉強がんばろうという気持ちになります。

一方、企業や官公庁のインターンシップ実施がここ2、3年で大変多くなりました。業務繁忙の中、インターンシップを実施していただくことは、ご負担の大きいことと思いますが、学生にとっては、多様な学びの機会が増え、大変ありがたいことだと思っております。働く大人として、自分の関わっている仕事の大変さ、おもしろさ、楽しさを学生に伝えていただければ、働く大人との時間を共有した学生は、学生としての時間では得ることのできない様々なことを感じ、そして、自分の将来に思いを馳せ、今後の人生を深く考えることでしょう。ひとりでも多くの学生が有意義な出会いをしてほしいと思います。

これからも、学生にとって、インターンシップがよい出会いの場であることを期待しております。

## 平成 30 年度インターンシップを実施して

### 「G短期大学：芸術表現学科・教授」

本学では、前期・後期の通年の授業「インターンシップ」の中で8月の夏季休業中に職場体験を実施しています。授業の1コマを使ってインターンシップの仕組みや心構えなど、インターンシップ推進協議会の方に説明していただき、その後同推進協議会のホームページに掲載されている事業所の中から自分が体験したい職場や職種を選び、大学を通して申し込みをします。また、県外出身で地元に戻ってインターンシップを希望する学生や自分で行きたい会社を探してきた学生については、大学で相手企業に直接お願いしています。申し込みにあたって希望理由の記述に多くの学生が手間取ります。自分が将来やりたいことが明確に決まっている学生は少なく、初めて就職について本気で考えます。短期大学の場合、1年生の3月には会社説明会が始まるのでゆっくり将来について考える時間があまりなく、インターンシップの授業を始めキャリア系科目の中で、将来について考えさせています。

今年は、25名の学生が「インターンシップ」の授業を受講し、そのうち23名がインターンシップ推進協議会の紹介によりインターンシップ先を決めることが出来ました。学生たちは、事業所が決まるとお礼と事前の打ち合わせのため各自で受け入れ先の事業所等に電話を掛けますが、改まったの電話を掛けたことがない学生がほとんどで、授業の中で何度も練習はするもの実際に掛けるとなると我々が考える以上のプレッシャーだったと思います。電話での事前の打ち合わせ等も、学生にとってはよい経験になったと思います。第一希望で決まらなかった学生もいましたが、インターンシップ推進協議会の方々のお世話で全ての学生が事業所で職場体験をすることが出来ました。

本学の学生は、全体的に大人しく外からは消極的にみられることも多いですが、学内ではよく挨拶もでき、学問に対する姿勢も前向きな学生がほとんどです。しかし、一步外に出ると思うように自分を表現することが苦手な学生が多く、その壁を超えることが課題の一つでした。そういう学生にとって、職場を直接体験できるインターンシップは、コミュニケーションについて考える良い機会になったと思います。大学の授業だけでは身に付けることが難しい多くのことを学ぶことができたと思います。これからAIやロボット、インターネットの活用などで働き方は大きく変わってくると考えられますが、働く意義や楽しさはどんな場所でどんな働き方をしても変わりません。本学の学生はほとんどが地元企業に就職しています。インターンシップを通して、地元企業の魅力を発見し、地元で働く意義や楽しさに気づき本学の目指す「地域に貢献できる人材育成」ができればと考えています。初めての職場体験をしたという学生も多くいろいろとご迷惑をお掛けしたと思いますが、どの事業所の方からも、学生たちが将来一人前の職業人として働けるよう温かいご指導をしていただくことが出来ました。本当にありがとうございました。

9月末から大学の後期授業が始まりました。学生たちの学びの姿勢も積極的になったように感じています。「将来のある若者を育てる」という理念に多くの企業が賛同され、学生を積極的に受け入れ、熱心にご指導していただきましたことに対し心から感謝申し上げます。

おわりに、本年度のインターンシップにご尽力いただきましたインターンシップ協議会の皆様を始め、直接ご指導いただきました各事業所の関係者の皆様に重ねて厚くお礼申し上げます。

## 「インターンシップ」から学ぶこと

### 「K大学：キャリアサポートセンター・

### インターンシップコーディネーター」

この夏、本学からは92名の学生が山口県インターンシップ推進協議会のプログラムに参加させていただきました。まずはこの場をお借りして、貴重なインターンシップの機会をくださった山口県インターンシップ推進協議会の皆さまと、受け入れてくださった事業所の皆様に心よりお礼申し上げます。

本学の学生が山口県インターンシップ推進協議会の夏のプログラムにエントリーするには、前期開講科目「インターンシップ」に参加することを条件としています。（春のインターンシップは授業科目ではありませんが、事前・事後指導を受けることを条件にエントリーを受け付けています。）

夏のインターンシップ参加希望学生は、正課・課外を問わず授業に参加し、事前指導としてビジネスマナーや、インターンシップの現状理解、エントリーシートの書き方や、いくつかの業界研究を経て当日を迎えます。授業参加学生は秋の「インターンシップ報告会」に出席し、お互いの経験と気づきを共有し学びを深めます。本レポートでは、いただいたインターンシップの機会から多くのことを学び取るための本学での取り組みをお伝えしたいと思います。

初回授業では、インターンシップの理解を深めると共に、学生が自分の連絡先をコーディネーターにメールで伝えることから始めます。SNS以外でやり取りをしたことのない学生にとっては「件名」「宛名」「本文」「署名」から成り立つビジネスメールの基礎を学ぶ良い機会にもなります。その後のマナー講座では、マナーの先生をお招きし、コミュニケーション能力の基礎である挨拶や笑顔の重要性を実践的に理解するプログラムを受けインターンシップに臨みます。

インターンシップ当日を迎えるに当たっての心構えとしては、自分はどんな時にやりがいを感じたか、どんな仕事をしているときに楽しいと感じたか等、自分の価値観や能力を自覚する「自己理解」を深める場として臨むように伝えています。また、その業界や事業所の仕事はどのようなものか学ぶ「環境理解」の場でもあることを感じてもらえるように関わっています。何を目的として参加するかを意識し、主体性を持ってインターンシップに参加するように伝えています。

インターンシップ参加後、学生の話聞きレポートや日誌を読む中からそれぞれの学びを感じ取ることができます。「自分のしていた作業がお客様の喜びにつながっていると感じた」という意見や、「仕事の『ほうれんそう(報告・連絡・相談)』の重要性を感じた」という感想、インターンシップの経験を通して今後の自分の成長課題を発見したり、この経験を糧にもっと卒業後の自分を考えたいという学生の報告がインターンシップならではの、教室の中ではできない学びであると思います。また一方では、インターンシップの経験から自分の進みたい道を見つけた学生、自分が何を大切にしたいか、自分が何を大切にしたいか、といった職業選択につながる気づきを得て帰る学生もいます。

インターンシップ報告会では、様々な業種でインターンシップを経験してきた学生でグループを組み、報告を聴くことで学びを共有しています。自分の専門外の分野での働き方や、自分とは違った視点の学びを聴くことで、自己理解と他者理解をより深める場となっています。皆様からいただいた貴重な経験を自己の成長に活かす思いを新たに、インターンシップ終了後も学生は成長していきます。

## 本校におけるインターンシップの取り組み

### 「C大学：教務部長」

本学は山陰地方としては唯一の大学であり、ライフデザイン学部ライフデザイン学科を有する単価大学です。ライフ＝人生や生活を、デザイン＝設計することを学生たちは日々学ぶわけですが、これは自分の人生をより良いものに設計していくための学問ではなく、他者の生活に寄り添い、協働しながらより良い人生に向けて支援をしていくための学問として位置付けています。本学では、そのために保育士や幼稚園教諭の資格を取得し、子どもや親を対象とした支援を学ぶ「子ども生活学専攻」、体育教員やトレーナー等の資格を取得し、健康維持の側面からの支援を学ぶ「スポーツ健康福祉専攻」、地域の文化、国際感覚をビジネスシーンで活用し、経済生活の支援を学ぶ「ビジネス文化専攻」の3専攻を備えています。各専攻の専門性を活かし、「自分がこういう資格が取りたい、専門知識や技術を身につけたい」ではなく「資格や知識・技術を身につけて、社会に対してこんな関わりをしていきたい、貢献していきたい」ことを「ライフデザインの学び」として学修に励んでいるところです。

今年度は3名の学生がインターンシップに参加を致しました。2名がビジネス文化専攻所属の3年生、1名がスポーツ健康福祉専攻所属の3年生です。行政機関、情報通信業、食品加工業と、受け入れてくださった業種はそれぞれではありますが、学生の報告書に目を通してみると、それぞれの学生が共通して感じたであろうことは次の点であるように思います。

1点目が「仕事の意義」です。それぞれの業種で、自分のやっていることは何なのかという問いにぶつかっていました。労働は単に労働者が生活の糧として賃金を得る場ではありません。それぞれの業種に与えられた役割の中で、商品を手にしたお客様、地域で日々の生活をされている住民、番組を見てくださっている視聴者に対して、喜んでもらえることや不安や不備がない状況を維持することで、様々な形で生活を支えていると感じたと思います。自分自身のためではなく、他の誰かのために汗することの大切さがわかった上で、自分がなにをすべきかを模索してほしいと思います。

2点目が「現状に納得しない」ことです。どの業種でも、いつも同じように変わらない仕事をしているわけではありません。前よりもより良いものを作り上げたり提供したりするために、同僚や関係者と議論を交わしたり、商品や製造環境を観察し対話することの重要性を学んでいたようです。そのためには常に考え続けることが求められます。大学という場で、正課の講義あるいは正課外の活動を通して自分の世界を広げることで、多様な思考を身につけることができると思います。新しいことに挑戦し続ける気持ちがそこにはあります。

大学がもつ課題も改めて見えてきたように思います。インターンシップで有意義な学びを得るためには、PBL（Problem Based Learning：課題解決型学習）にできる限り多く触れて、常に問題意識をもちながら日々の学びと実践をつなげていくことが有効です。しかしながら、そのようなPBL型の講義が大学で十分に提供できているわけではありません。全ての学年でPBL型の講義に接する機会がより多くできるよう、大学としてもさらなる教育の質の向上に努めて参りたいと思います。

最後になりましたが、受入事業所の皆様方、山口県インターンシップ推進協議会の皆様には多大なるご協力を賜り、心より御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

〈大学 報告〉

## 本校におけるインターンシップへの取り組み

### 「S大学校：学生部・主任」

本校のインターンシップは、学生の就業意識を高め進路決定に役立てることを目的に、講座外実習科目として実施されています。

インターンシップ先の行政機関や企業等での業務に従事することで、本校で学んでいる知識の有効性を確認し、仕事に対する理解、さらには職業意識の向上や学習意欲の喚起を目標としています。

インターンシップは夏休み期間中に実施され、船舶職員を志望する場合は4年次に、陸上の企業を志望する場合は3年次に行います。

また、夏休み期間中には、各学科それぞれが実習や調査を行うためにインターンシップに参加出来る日程が限られますが、そのような状況の中でも今期は38名の受講がありました。

受講者のうち船舶職員希望者は26名、それ以外の陸上の企業希望者が12名で、そのうち1名が山口県インターンシップ推進協議会でお世話になりました。

私が所属する学生部は、主に行政機関などの公募型インターンシップに対する窓口として、その募集要領に沿った学生からの申込みや受入先からの決定通知、インターンシップ終了後の報告書提出などの事務処理に加えビジネスマナーセミナーを行っています。

学生が所属する学科では、企業等の募集に対する応募の手続きやインターンシップを受講する心構えなどの指導を行っています。

学生から提出のあったインターンシップ報告書の内容からは、しっかりとした成果が伺えます。実際に業務に触れることで漠然とした組織や業務のイメージがより現実のものとして理解できており、体験後の就業意欲も高まっているようです。

近年はインターンシップを実施する企業等が増え、その募集内容は、日数や中身などが多様化しており、その中で本校教育の一環として有効なものを学生に提供します。その点、山口県インターンシップ推進協議会では、大学側が求めるきちんとした就業体験を実施する企業をコーディネートしていただけるので、学生に安心して勧めることが出来ました。

最後になりましたが、受入事業所の方々や山口県インターンシップ推進協議会の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。



## 本学でのインターンシップ推進

### 「T大学：経済学部 講師」

本年度の山口県インターンシップ推進協議会夏季インターンシップにおいては、本学より18名が実習に参加しました。受け入れ事業所の皆様のご支援、ご指導もあり、無事に実習を終えることができました。

実習修了後、私の研究室を訪れた学生からは非常に充実した実習が行えたという声を聞くことができました。学生らが書いたレポートを見て印象に残ったのは、「思っていた以上に色々な仕事がある」という感想を抱いた学生が多かったことです。普段自分たちが図書館などの施設や商店を利用する際に見ている従業員の方々の姿はほんの一部分に過ぎず、実際には見えないところで行われている仕事が数多くあるということに気付いたようです。また、仕事を効率化するための工夫や利用者がより利用しやすくなるための試行錯誤を日々行っていることを学べたという感想もありました。これらはインターンシップに参加して実際の現場を体験したからこそ得られた経験です。この経験は彼らの今後の活動に活かされていくことでしょう。

18名の学生がインターンシップに参加したとは言え、昨年度に比べると申込者数が33名から20名へ13名の減少となりました。本学の学生は、就職活動全般に関して動き出しが遅い傾向があることが指摘されています。それに伴いインターンシップに関してもどこか他人事のように感じている学生も少なくありません。如何にこの意識を変えていくかが本学の課題です。今年度は春季のインターンシップで1dayからの短期インターンシップも開催される予定です。まずは短期のインターンシップからの参加を呼びかけ、キャリア形成を自分自身の問題だと学生に気づかせられるよう尽力していきたいと思えます。

末筆ながら、本年度も貴重なお時間を学生のインターンシップのために割いて下さった事業所の皆様、事業所との連携によりインターンシップが円滑に進むようご尽力いただいた山口県インターンシップ推進協議会の皆様には心より御礼申し上げます。

## インターンシップの取組みについて

### 「B大学：キャリア支援センター事務部長」

#### 1. 本学での取組み

本学のインターンシップは、学生の自主性を重んじた取組みを行っています。また、就職に向けた必修授業であるキャリアデザインにおいて、インターンシップの重要性を説明するとともに積極的な参加を指導しています。同時に、本年度はトータル10日間以上のインターンシップについて、単位認定の取り扱いも実施しております。

#### 2. 本年度のインターンシップについて

本年度のインターンシップの傾向として、

- ・昨年度と同様、民間サイトのインターンシップに学生が流れた。
- ・山口県のインターンシップについては、山口県立博物館、下関市中央図書館、山口県警察本部、萩市市役所と、民間サイトでは申込みが困難な公的機関への申込みとなった。等の傾向が見受けられた。なお、北九州市へのインターンシップも同様の傾向です。

#### 3. 学生の声

学生からの声として、「社会人としての厳しさを感じた」、「職業のシビアな場面を目の当たりにした」、「業務は思っている以上に大変」といった仕事の厳しさを実感する感想や、「自分が思っていた以上に仕事の幅が広いということがわかった」、「自分が目指したい職業を体験でき、社員の方の仕事に対するリアルな声を聴けるなど、素晴らしい経験ができた」など、今後の就職活動の指針を得た学生もおり、総じて非常に有意義であったと思われる。

#### 4. 要望等

要望については、以下のとおり。

- ・民間サイトのインターンシップに比較し、数社を受ける場合、手続、レポート提出等あり時間がかかるため、簡素な対応を望む意見があった。
- ・普段、インターンシップにいけないような公的機関にいけることがありがたかった。

#### 5. 所感

今回、インターンシップに参加した学生は、自身の甘さ、マナー、社会人の職務遂行を体験し、成長した姿を見せるようになりました。このような機会を今後も継続していただきたいと思います。

最後になりましたが、学生の受け入れにご尽力いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様に、厚く御礼申し上げます。

以 上

## インターンシップを通じた社会が求める人材育成

### 「A大学：キャリアサポート室長」

現在、大学を卒業した学生の3人に1人が離職するという現実があります。せっかく採用して、教育や研修には莫大な労力や時間とコストをかけ、やっと使えるようになった時点で辞めてしまう。これでは企業はたまりません。人手不足と言われる昨今の状況下で、企業や社会がどんな人材を求めているかということを考える時に、経済同友会が2016年に発表した「これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待」が一つの参考となります。そこには、企業が求める人材像と資質・能力や企業が学生に対して面接で確認したいことの例示など、課題や求めるものが記載されていますが、その中に「学生時代から様々なことにチャレンジする（失敗経験を活かす）」「部活動や就業体験で得たものは何か」「インターンシップに参加したか、そこで得たものは何か」など、インターンシップ等を通じて自らの成長と学びを深めてきているかということが問われています。



大学での学びに加えて、こうした経験を通じた学びとその成果、そして企業が高等教育に求める「論理的な思考能力や問題解決能力の養成」がこれから社会に出て行く卒業生に求められていることを考えた時に、インターンシップでの経験や気づきが欠かせないものとなります。学生が社会の中で、自ら気づくチャンスを得て、自ら考えて行動できる経験は、こうした力を伸ばしていく上で非常に貴重な経験となります。また、大学2年生あるいは3年生の時点でこうしたことに気づくことができれば、その後の学生の成長まで高めることが期待できます。

本学においては学生のインターンシップ参加者数は少ないですが、各種資格取得を目指す学生は、教育実習、病院実習、臨地実習など各種実習が専門必修科目として幅広く行われており、より専門的かつ長期間の実習を課されるものも少なくありません。

こうした実習も含め、学生が社会に出ていくための学外での体験だけでなく、そこで何を学び、どれだけ社会が求める人材に成長させることができるかが、今、大学に問われています。ただ単に資格取得のために実習に行く、就職活動の準備としてインターンシップに参加する。仮に最初はそこから始まったとしても、それだけで終わってしまうのではなく、そこからどのように学生を成長させていくかという難しい問題にこれから取り組んでいかなければなりません。自ら課題を見出し解決する力に結び付けていくために、単なる体験や経験から「就業力」というスキルにまで高めて行くことに取り組んでいきたいと考えます。

最後になりましたが、事前準備やマッチングなどにご尽力いただいた山口県インターンシップ推進協議会のみなさま、まだまだ未熟な学生を受け入れて温かくご指導いただいた事業所のみなさまに、厚く御礼申しあげます。